

全国公開されなかった秀作映画を上映しようとして、新しい映画祭が今年夏、横浜に生まれる。第1回「横浜黄金町映画祭」。横浜市中

区若葉町の映画館「ジャック&ベティ」を会場に、7月26日から8月1日までの7日間、40作品以上が上映される。(佐藤善一)

横浜・黄金町に新映画祭

今夏7日間に40作品以上

「全国公開されなかった優れた作品、紹介したい」



映画祭実行委員長の渡辺国寿さん(右)とジャック&ベティ支配人の梶原俊幸さん。横浜市中央区若葉町

テーマは「再上陸―海外が注目する日本の才能」。海外で高い評価を得ながら、国内で広く上映されることがないままの作品を中心に集めた。メインプログラムは、トリノ国際映画祭長編部門でグランプリをとった「美式天然」(坪川拓史監督)やロッテル

「日本の才能」再上陸「テーマ」「美式天然」「垂乳女」など。ほかに学生映画から「八

映画館「ジャック&ベティ」で

月の軽い豚(渡辺紘文監督)や「門」(李允石監督)、「心」(月川翔監督)。横浜を舞台にした「ヨコハマメリー」(中村高寛監督)や「我が人生最悪の時」(林海象監督)、「霧笛」(村田実監督)、「喜劇 家族同盟」(前田陽一監督)も上映する。

林海象、中村高寛両監督のトークショー、8月1日には「ヨコハマメリー」の制作にかかわった作家山崎洋子さん、写真家森日出夫さんらによるトークショーもある。

7月26日には約10人の若手映画監督が参加するシンポジウムや映画評論家の佐藤忠男さんによる講演会、27日には

ジャック&ベティは横浜では珍しくなった名画座。昨年末、ここに集う映画ファンが中心となって実行委員会を立ち上げ、ボランティアを募って準備を進めてきた。委員長を務めるフリーライ

ターの渡辺国寿さん(36)は「全国公開される作品はごくわずか。優れた作品を1本でも多く紹介したい。年1回の映画祭に育てていきたい」という。昨年春から仲間2人とジャック&ベティの経営を始めた梶原俊幸支配人(31)は「かつて黄金町は多くの映画館があった場所。映画祭を足がかりに、地域住民を巻き込んで町全体を盛り上げたい」と話している。

詳しくはホームページ(<http://www.koganecho.com/>)か、同館(045・243・9800)へ。



- ◎「我が人生最悪の時」(©フォーライフミュージックエンタテイメント/映像探偵社)
- Ⓣ「美式天然」



活動大賞 渡辺国寿さん